

このページは、小・中学生向け  
て梅光学院大学子ども学部子ども  
未来学科(地域共生ゼミ)の学生が  
作っています。

# しものせき キッズページ

かねこ  
「金子みすゞの世界」  
せかい



▲やまぎん史料館1階の「金子みすゞ展」より、金子みすゞのモザイク画。正面と左右からは、違う金子みすゞが見えます。



## 下関と金子みすゞ

童謡詩人・金子みすゞ(本名テ  
ル)は、明治36(1903)年に仙  
崎(現在の長門市)で生まれ、下関  
には20歳から亡くなる26歳まで住  
んでいました。  
今回、下関市在住の金子みすゞ  
研究者・木原豊美さんにお話を聞  
きました。みすゞと下関は関わり  
が深く、詩のほとんどが下関で書  
かれています。それも、何度も何  
度も書き直しながらだそうです。  
彼女の詩の中には人間や自然の  
ありのままの姿が描かれています。  
その中に、みすゞの本当のことを  
見抜く力と叫びが聞こえます。

## おひる休み

「城取りするもな みな来いよ。」  
「ため鬼するもな みな来いよ。」  
あの組や、いれてはくれまいし、  
あの組や、あの子が大将だし。  
知らぬかほして、片かげで、  
地面に汽車を描いてゐる。  
あの組や、わかれてはじめたな、  
あそこは、鬼きめしてゐるな。  
なにか、びくびくしてゐたが、  
みんなはじめてしまつたら、  
騒ぎのなかに、裏山の  
蟬のなぐのがきこえるよ。  
この詩を読むと、みすゞは人付  
き合いがあまり上手ではなく、気  
軽に人と溶け込めない性格のよう  
に思われます。ひよつとしたら、  
本当に体験したのかも知れませ  
ね。なかなか皆の輪の中に入れな  
いといった場面は今でも見られ、そ  
れがイジメにつながることもあり  
ますね。皆さんは何を思いましたか。

## 海とかもめ

海は青いとおもつてた、  
かもめは白いと思つてた。  
だのに、今見る、この海も、



かもめの翅も、ねずみ色。  
みな知つてるとおもつてた、  
だけでもそれはうそでした。  
空は青いと知つてます、  
雪は白いと知つてます。  
みんな見てます、知つてます、  
けれどもそれもうそが知ら。

大正13(1924)年の初夏の作  
品で、無限のまなざしを感じます。  
自分が思い、知っていたイメージ  
と今見る現実とは違っていること。  
見えているものは一部であつて、  
真実はもっと深いものであること。  
冷静な目でみすゞは見ています。  
※キッズページ用に詩の全ての  
漢字に読み仮名を付けています

★やまぎん史料館 金子みすゞ展  
「金子みすゞと下関とその時代」  
期間 9月29日(日)まで  
場所 やまぎん史料館(山口銀行旧  
本店1階)観音崎町 ☎232-0800  
0 ※月・火曜日休館

★講演会「金子みすゞ生誕百年  
にあたって」  
日時 9月7日(土)午前10時30分  
11時30分(入場無料)  
場所 やまぎん史料館展示棟4階  
講師 木原豊美氏



9月号のイラスト・編集記者(左から)  
武下佑介さん、西田智則さん



▲金子みすゞを撮影した可能性があるカメラの  
セット。旧秋田商会ビル(南部町)に展示中。



▲金子みすゞと下関の関わりについて紹介して  
います(やまぎん史料館)。